

温風暖房機

徳島県立農林水産総合技術支援センターと株式会社エコテック(徳島県松茂町)は、重油式温風暖房機の燃焼室に取り入れる空気量を調整するなどして、燃油使用量を1割削減する省エネ技術を開発し、県内で普及を進めている。同センターは、熱回収機を取り付けより安価にできる方法として、空気量を調整することを強く勧める。(長野郁絵)

徳島県農技センターなど



空気量は、スマートスター(ばい煙測定器)で煙突から出る煙の色を見て調整し、排気ガス測定器で燃焼効率を確認する。同センターは、「工場や事業所の暖房機では空気量の調整は一般的だ

が、農業分野では行わられていなかった」と目を付けて。実験では、空気量と不完全燃焼になり、多いとハウス内に吹き出す温風への熱回収がうまくいかない。暖房機には最適な空気量に調整するためのエアシャッターが付いているが、目測での調整が難しく、ほとんどの生産者は調整できていないのが現状だ。

乳苗・疎植栽培は、同様に比べて育苗期間と移植箱数を半分以下にした乳苗疎植栽培で、宮城県古川農業試験場は稚苗疎植栽培とほぼ同じ収量が確保できることを実証した。集落農などでも、大豆との輪作による経営拡大が進む中、低コスト・省力化が見込める技術として栽培法確立を目指す。

畜産試験場が2009年に開発した育苗法「常時被覆簡易乳苗(べた掛け乳苗)」と、3・3平方メートル当たり

乳苗・疎植で省力
「ひとめぼれ」10俵どり県試
宮城農試
城川

1・4葉の乳苗(べた掛け乳苗)で育てた2・7葉の稚苗(宮城県古川農業試験場提供)

「ひとめぼれ」を試験栽培した。ベた掛け乳苗は、苗を常に被覆し、かん水せず育てる方法だ。1・5

村逸品



本格芋焼酎「八重桜夢」

宮崎県日南市

宮崎県日南市の古澤醸造は、JAはまゆうの協力を受け、地元産の米から造ったこうじと地元産のサツマイモを原料とする本格芋焼酎「八重桜夢」を製造販売

牛の遺伝病 IARS異常症

種雄の検査結果公表

農水省、HPに649頭掲示

農水省は、肉用牛の遺伝病であるIARS異常症で、種雄牛について原因となる遺伝子を持つ

が減らせ、低コスト化、培並みの収量を得た。同試験場は「稚苗移植と比べて箱数と育苗期間が短くなる。」と説明。稚苗疎植栽培並みだった。この他、大崎市の試験場内の水田でも慣行栽培で移植した。収量は、昨年5月7日移植で10俵当たり約600キロ、同じ年5月7日移植で10俵当たり約400キロとなり、大規模経営では、みやこがう。

試験は、(1)牛の種雄がともに保因牛で、同症は「みやこがう」。家畜密度を高め、農業の復興を図る。

試験は、(2)牛の種雄がともに保因牛で、同症は「みやこがう」。家畜密度を高め、農業の復興を図る。

試験は、(3)牛の種雄がともに保因牛で、同症は「みやこがう」。家畜密度を高め、農業の復興を図る。

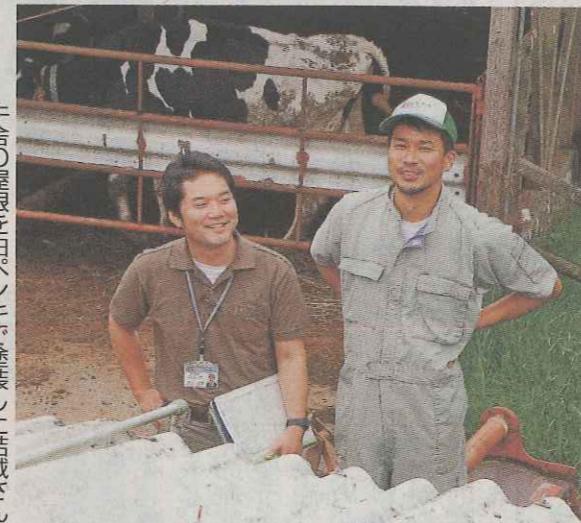
試験は、(4)牛の種雄がともに保因牛で、同症は「みやこがう」。家畜密度を高め、農業の復興を図る。

試験は、(5)牛の種雄がともに保因牛で、同症は「みやこがう」。家畜密度を高め、農業の復興を図る。

畜舎の暑熱対策で、水性の白ペンキや石灰の塗布が、低コストで農家が簡単に実践できる方法として注目を集めている。屋根表面を白くすることで太陽熱を反射し、畜舎内の温度上昇を抑える。宮崎県串間市の酪農家結城大輔さん(35)はペニキを利用した。経産牛30頭を飼養する牛舎の屋根に施し、乳量や乳質の改善につなげている。

屋根材は一般的なスレート。2012年8月上旬、屋根の汚れを水で洗い落とした後、消毒剤の散布に使う電動噴霧器で

白ペンキ・石灰塗布

酪農
(宮崎)

牛舎の屋根を白ペンキで塗装した結城さん(左)(宮崎県串間市)

低成本で確実・簡単

ペンキを塗布した。屋根面積は500平方メートル。ペンキ60kgを使い、費用は約3万円。2人で作業度程度で抑えられる。牛群検定の標準乳量(1頭当たり日量)は12年8月に33kgで、前年同月より5kg増加した。協方した南那珂中武誠司主査は「総合的な対策に取り組んだことが成績の改善につながった」と評価する。

※※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

ストレス抑え乳量も向上

合で水に溶ぐ。雨で流れ落ちないよう、晴れの日には作業をする。転落防止策の命綱も必須だ。牛、養鶏、養豚など他の畜種でも効果がある。屋根自体の温度も抑えるので、放射熱による暑さも防げる。

県畜産試験場によるト、230平方メートルの屋根への塗布で、ペニキ代は2万~3万円、石灰では7500円程度。無駄がないように丁寧に塗れば、使用量を減らしてコストを低減できる。ペニキは数年間持つに対しても石灰はシーザンなどで、石灰はシーザンごとに塗り直しが必要だ。

同試験場の鍋西久主任研究員は「白ペンキや石灰の塗布は、低コストで、石灰は畜舎環境を改善できる」と話す。その上で、他の対策の併用を提唱する。

県畜産試験場によるト、230平方メートルの屋根への塗布で、ペニキ代は2万~3万円、石灰では7500円程度。無駄がないように丁寧に塗れば、使用量を減らしてコストを低減できる。ペニキは数年間持つに対しても石灰はシーザンごとに塗り直しが必要だ。

同試験場の鍋西久主任研究員は「白ペンキや石灰の塗布は、低コストで、石灰は畜舎環境を改善できる」と話す。その上で、他の対策の併用を提唱する。

県畜産試験場によるト、23